

小川和紙と山岡鉄舟

和紙を東京で販売したく思いついたのが当時の常備薬「宝丹」の包み紙であった。上野の本
店に交渉していくが、保証人三人を必要とのこと、成川が山岡鉄舟をお願いする旨を伝えると、
相手が恐縮して「鉄舟氏なら一人で充分です」と言い、無事商談が成立したそうです。ここに
展示してありますのは、和紙を漉いた簾、それをピンクに染めた顔料の写真です。販売会社の
名称は成川の「成」をとって「成国社」（せいこくしゃ）と名付け、鉄舟が揮毫しました。

小野家知行地の名主成川忠次郎が、明治になり小川



成国社